

【概要版】

中央区観光振興ビジョン2012



歴史と未来が交差する 「都市観光のまち」へ

いとなみ、まちなみ、おもてなしが結びついた、
新しい「都市観光」モデルの実現



平成24年3月
中央区

第1章 策定の基本的な考え方

1 策定の背景と目的

観光は、わが国の新成長戦略の1つに据えられており、国を挙げて観光立国の実現を目指しています。本区周辺でも観光に関する取り組みが活発化しており、これに対応するためには、区が官民一体となって取り組める考え方や戦略を明確にすることが求められています。そこで、観光振興のあり方や方向性を示すため、「中央区観光振興ビジョン」を策定することとしました。

2 期間

対象とする期間は、平成24年度(2012年度)から概ね10カ年とします。社会や経済の情勢、観光振興の進捗状況、周辺環境の変化などにあわせ、必要に応じて見直しを行っていきます。

3 理念

歴史と未来が交差する「都市観光のまち」へ

いとなみ、まちなみ、おもてなしが結びついた、新しい「都市観光」モデルの実現

理念の考え方

「都市観光」とは都市がもつ歴史・文化に根ざして築き上げられた現代都市の機能(娯楽、商業、サービス等)を観光資源にとらえ、その魅力を住む人と訪れる人がともに楽しむことです。

中央区では江戸時代から現在まで地域の人々がくらしと仕事と娯楽を結びつけながら、自分たちの力でまちをつくらせてきたことから、人々のくらしやいとなみ自体が魅力を放っています。

こうした魅力に惹かれ集まる人々と、暮らす人々がともに楽しむことで一流の芸術、グルメ、娯楽など都市の魅力を生み出し続け、持続的な観光を実現することができます。

中央区では「都市観光」の視点で、まちと人そのものを観光資源と捉え、住む人と訪れる人がともに中央区の魅力を作り発信し続ける、新しい観光のあり方の実現をめざします。

実現に向けて

4 5つの目標

目標1

歴史と文化に育まれた中央区のまちなみやいとなみそのものが魅力であり、中央区を訪れ体験するたびに新しい魅力を発見できるようにします。

目標2

海外から日本に行きたいと考えている旅行者が十分な情報を入手できるよう、中央区に住む外国人を中心に観光情報を世界に発信し、旅行者とのコミュニケーションを活発にします。

目標3

官民の枠を超えた様々な観光の担い手同士が連携し、人材育成のノウハウを共有するとともに、新たな観光への取り組みを持続的に生み出せるようにします。

目標4

中央区の観光情報を概観できるようにするとともに、様々な技術を活用したツールやメディア媒体等を利用して容易に情報を入手できるようにします。

目標5

区内を回遊できる水陸の交通網や「中央区観光拠点(仮称)」をはじめとする観光案内所など誰もがわかりやすく、利用しやすい環境で中央区全体を楽しめるようにします。

5 施策の体系

戦 略	重点施策	主な施策
<p>戦略1</p> <p>「都市観光」の魅力を引き出す</p> <p>江戸から、近代、そして現代に受け継がれた豊かな文化を活かし、「都市観光」の視点で新たなまちの楽しみ方を創造します。</p>	<p>まちとまちをつなぎ回遊する「江戸・東京体験ループ(仮称)」をつくる</p> <p>「食都・築地」の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●水辺観光の推進 ●産業観光の推進 ●歴史・文化を中心としたテーマ型観光の普及促進 ●スポーツ観光の推進 ●リピーターを生み出すしくみづくり ●東京スカイツリーを活用した観光ルート開発
<p>戦略2</p> <p>観光の国際化を促進する</p> <p>外国人旅行客誘致の国内競争時代に対応し、中央区の魅力在海外に情報発信する取り組みを強化します。</p>	<p>外国人観光特派員プロジェクトの創設</p> <p>観光ウェブサイト「Visit Mid Tokyo(仮称)」の開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●区民・事業者による外国語の情報発信の支援 ●海外旅行市場へのPR展開 ●観光イベントへの積極的な出展 ●外国人旅行客の視点を考慮した受入基盤の整備 ●外国人留学生とのワークショップによる官学連携促進
<p>戦略3</p> <p>観光の担い手を育成する</p> <p>区民、地域、事業者、行政など多様な担い手の横断的な協働・連携を促進し、区民を主役とした観光の担い手を育成します。</p>	<p>「都市観光推進協議会(仮称)」の設立・運営</p> <p>テーマ別観光ルートの開発と案内人の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●中央区観光協会の機能強化 ●観光の担い手の交流・ネットワーク化 ●観光の担い手認定制度の確立 ●インターンシップによる育成
<p>戦略4</p> <p>観光情報の発信を強化する</p> <p>拡散する観光情報を一元的に収集整理し、ICTの活用など新たな発想で多様な観光情報を発信します。</p>	<p>「中央区観光EXPO」の開催</p> <p>スマートフォン等携帯情報端末を活用した情報発信の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●観光情報の一元化 ●隅田川サミットの開催 ●観光案内施設の拡充とネットワーク化 ●「中央区観光ミッション団」の結成と「中央区観光ミッション」の開催 ●パブリシティ強化 ●フィルムコミッション機能の整備 ●情報発信のフレームづくり
<p>戦略5</p> <p>観光に必要な基盤を整備する</p> <p>初めて訪れた人をはじめ、誰もが魅力ある観光スポットにたどり着けるように、わかりやすく快適な環境を整備します。</p>	<p>「中央区観光拠点(仮称)」の整備</p> <p>「まちかど案内所(仮称)」の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「川の道」の整備 ●羽田空港からの水上交通整備の検討 ●携帯端末等によって情報を得られる通信環境の整備 ●安心・安全なユニバーサルデザインの実現 ●隅田川ランニングコースの整備 ●コミュニティサイクルの導入 ●新しいデジタル観光案内機能の整備 ●観光ガイド映像の整備 ●観光バス駐車スペースの整備

第2章 戦略と方向性

戦略1 「都市観光」の魅力を引き出す

これまでの方策は個別の観光資源を対象としていたため、来街者がまち全体を楽しむことにつながっていませんでした。中央区のまちそのものを楽しみ、都市の生活を楽しむ「都市観光」の魅力高める戦略が有効です。

施策の方向性 まちとまちを結び、くり返し訪れてもらう



現代の都市と江戸の風情



春の隅田川



若い世代のアーティストが活躍する
東日本橋のリノベーション建築
写真提供: DAICI ANO

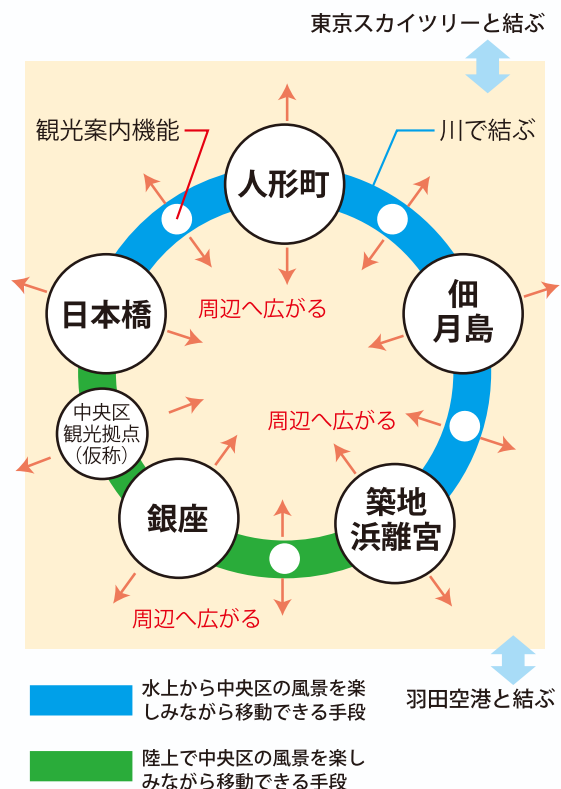
重点施策

1 まちとまちをつなぎ回遊する「江戸・東京体験ループ(仮称)」をつくる

江戸の町は、徳川時代のはじめ頃に「徒歩」と「船」による交通が便利のように計画されました。この時に出来た都市構造の多くは今も残っており、現代のまちづくりに活かされ受け継がれています。こうした江戸当時のまちの構造と現代のつながりを体感できるポイントを「徒歩」と「船」で結ぶ観光ルートを整備します。それにより回遊性を高め、区内での滞在時間の延長、観光消費の増大を図ります。

このループは初めて区を訪れた人にはわかりやすい「都市観光」の入口を提供するとともに、リピーターにはループによる利便性の高い交通主軸によって、普段あまり馴染みの無い場所も含め、区内のどこへでも気軽に訪れる環境を提供します。このループに沿って観光案内機能を配備し、さらに周囲のエリアへと興味関心を持ってもらい、より奥深い本区の魅力に触れてもらいます。

「江戸・東京体験ループ(仮称)」



2 「食都・築地」の形成

築地のまちは他に類を見ない独特の魅力に溢れています。この魅力は、築地市場がほんものの「いとなみ」を見ることが出来る場所だからこそといえます。くらしといとなみが結ばれた「都市観光」ならではの観光資源です。

区はこれまで、このような築地のまちな魅力をも市場移転後も守り将来に引き継いでいくために、「鮮魚マーケット構想」や「賑わい施設」といった構想を地域の人々とともにまとめ、都に検討を要望してきました。市場移転後の跡地に鮮魚・青果など幅広い品揃えを実現できる商業施設を整備し、場外市場の機能との相乗効果により、プロの人々のもとより一般客・観光客の人々にも親しまれる食文化の発信拠点を形成することをねらいとし、築地にこれまで以上の魅力を創出していくことをめざします。



食文化の産業観光

主な施策

① 水辺観光の推進

舟運による観光振興、水上交通の活性化、船着場の利用促進を図ります。

② 産業観光の推進

ものづくりや職業体験などの産業観光を促進します。

③ 歴史・文化を中心としたテーマ型観光の普及促進

建築、美術、ファッション等のテーマに沿った体験型のツアーを開発します。

④ スポーツ観光の推進

マラソン観戦者の誘客向上と同時に、周辺地域での飲食などの観光消費につなげ、スポーツ観光を促進します。

⑤ リピーターを生み出すしくみづくり

来街頻度や体験の深さによって異なる多様な来街者のニーズに合わせた多様な観光サービスによりリピーター形成を図ります。

⑥ 東京スカイツリーを活用した観光ルート開発

東京スカイツリー周辺での観光誘致の取り組みと連携しながら、船や地下鉄で行き来するルート、神田川・日本橋川の周遊ルートなど、新しい観光ルートを開発します。



両国広小路棧敷
写真提供：隅田川風物図巻実行委員会

戦略2 観光の国際化を促進する

外国人観光客は増加傾向にあり、他の自治体との誘致競争も激しくなっている一方で、これまで外国人旅行客に対するPRや来街基盤の整備といった努力は限定的でした。これからは外国人旅行客との相互理解を深め、ニーズを的確に捉えたうえで来街を促進していく戦略が求められます。

施策の方向性 外国人観光客の視点を活かす



地域文化を理解してもらう



日本文化を伝える交流
写真提供:中央区文化・国際交流振興協会



外国人との交流促進のイメージ

重点施策

1 外国人観光特派員プロジェクトの創設

本区では海外からの在住・在勤者も多く、自国の家族や友人たちなどと様々なネットワークを通じて情報を交換しています。こうした人々に対し、中央区をもっと知ってもらう機会として「中央区外国人観光特派員」制度を設け、海外の観光客への情報発信を支援してもらいます。日本人では気がつきにくい外国人の視点による情報をとりあげてもらい、海外からの観光客のニーズにあった情報提供を実現します。

また、外国人観光特派員をはじめ、海外の旅行会社、現地メディアなどとネットワークを作り、海外向け観光PRコンテンツの作成や観光のアドバイザーとして活躍してもらいます。このネットワークの参加者に対して、常に新しい観光情報をメールマガジンで配信したり、実際に中央区観光を体験してもらう機会を設けます。中央区の歴史、文化、イベントなどの体験を通じ、特派員同士でも情報交換をすすめてもらい、新しい魅力の発掘にも寄与してもらいます。また、日本人の観光の担い手に対して、異文化の観光客を魅了するコツを提供してもらうなど、文化の相互理解を通じた観光の国際化にも結びつけていきます。

2 観光ウェブサイト「Visit Mid Tokyo (仮称)」の開発

外国人旅行者の多くは、旅先でフェイスブックやツイッターというソーシャルメディアを利用して仲間に情報を発信したり、街中にいながらにしてインターネット上の地図をはじめ様々なウェブサイトを検索するなど、スマートフォンによる情報を多く利用しています。このようなニーズに応えスマートフォンに対応した観光情報を提供する環境を整えます。

これら観光情報は各国の言葉や文化に合わせた内容が必要となるため、英語圏、中国語圏(簡体・繁体)、韓国語圏など、地域に合わせた外国人観光特派員により、観光ウェブサイト「Visit Mid Tokyo (仮称)」の開設や一般の情報交換サイトを通じて国内外の外国人旅行者へ発信し、中央区の認知や理解を高め訪問意欲を喚起する情報提供をめざしていきます。



スマートフォンを利用する外国人旅行者のイメージ

主な施策

① 区民・事業者による外国語の情報発信の支援

外国語メニュー作成支援ウェブサイトの制作、講座や研修会等を開催します。

② 海外旅行市場へのPR展開

海外旅行市場へのPR展開、海外旅行事業者との連絡体制を構築することで、海外のメディア等を通じ、積極的な旅行者の誘致を促します。

③ 観光イベントへの積極的な出展

「JATA(日本旅行業協会)旅行博」へ出展し、旅行業関係者に中央区の観光資源を紹介します。

④ 外国人旅行者の視点を考慮した受入基盤の整備

観光案内所、主要駅、バスターミナル、公園、その他公共施設などへの外国語表記による誘導サインを整備します。

⑤ 外国人留学生とのワークショップによる官学連携促進

外国人留学生を擁する大学との官学連携ワークショップを実施し、観光スポットの検証、観光ルートの開発、観光資源の発掘を行います。



JATA国際観光フォーラム・旅博2011の様子
写真提供: JATA(日本旅行業協会)

戦略3 観光の担い手を育成する

中央区には観光の担い手となる人材や企業・団体が豊富に存在していますが、観光事業に携わる場や機会が十分にあるとはいえません。また、区の人口が急激に増えつつあるため、新たな観光の担い手の拡充が期待されます。これまで区の観光を支えてきた担い手の技術を後継者に伝え、さらに高めていく戦略が必要となります。

施策の方向性 「民」の力を活かし、「官」との連携を促す



地域と事業者が力を合わせて実現する
日本橋・京橋まつり「大江戸活粋(かっき)パレード」



「日本橋を洗う会」の様子
写真提供:名橋「日本橋」保存会



地域の担い手が支える伝統のイベント
べったら市



地域のファンをつくる接客で観光のおもてなし
せともの市

重点施策

1 「都市観光推進協議会(仮称)」の設立・運営

中央区独自の「都市観光」を確立していくために、観光の担い手である区民、商店街、事業者、行政をはじめ、「都市観光」の視点を持った有識者やクリエイターなども含めた、横断的な協議の場を設立します。

官民の多様な主体による協働をコーディネートし、具体的な課題の抽出や、解決のための方策の協議を継続的に行い、新しい観光振興ビジョンを推進する中心的な役割を担います。商店街、事業者、区内で活躍するNPO、区民活動、行政各部門等の連携を促進し、新しい観光サービスやイベントを生み出していくなど、テーマ毎に官民連携によるプロジェクトチームを組織化するための母体としても位置づけます。

2 テーマ別観光ルートの開発と案内人の育成

現在のまち歩きルートは日本橋や銀座など「エリア別」にまちの歴史をテーマとしたツアーが多くなっています。

本施策では人材育成という観点も考慮しながら、観光客の関心が高い歴史的建造物や食べ物、ファッションといったテーマ別のルートを新たに設定します。たとえば「近代建築を巡る」「路地～水路をたどる」など、個別の街ではなくテーマ別にまち歩きコースを設定することで、街から街へと回遊型の観光スタイルを定着させていくことが可能になります。

開発したまち歩きルートは、より多くの人々が案内手法を身につけられるように標準化し、観光案内ボランティアの拡大により多くの観光客を迎える体制を整備します。水辺を活用した舟運については、区内の新たな回遊手段として期待される一方で、説明できる人材が不足しているため重点的に育成していきます。



水辺観光の担い手を充実させていく



まち歩きボランティア養成講座

主な施策

① 中央区観光協会の機能強化

国内の募集型企画旅行を実施することができる第3種旅行業登録のため、今後観光協会の法人化を検討していきます。

② 観光の担い手の交流・ネットワーク化

「中央区観光拠点(仮称)」を活用し、まちづくりに携わる人々、観光ボランティアや文化財サポーター、老舗の経営者や従業員、クリエイターやアーティストなど、観光の担い手の交流の場とするとともに、観光の取り組み事例などのノウハウを集積・共有することで、担い手の育成を図ります。

③ 観光の担い手認定制度の確立

初心者には敷居が高い老舗めぐりの観光案内人、工場見学や職場体験を行っている民間事業者等、中央区の観光資源を解説する観光の担い手を認定する制度を整備します。

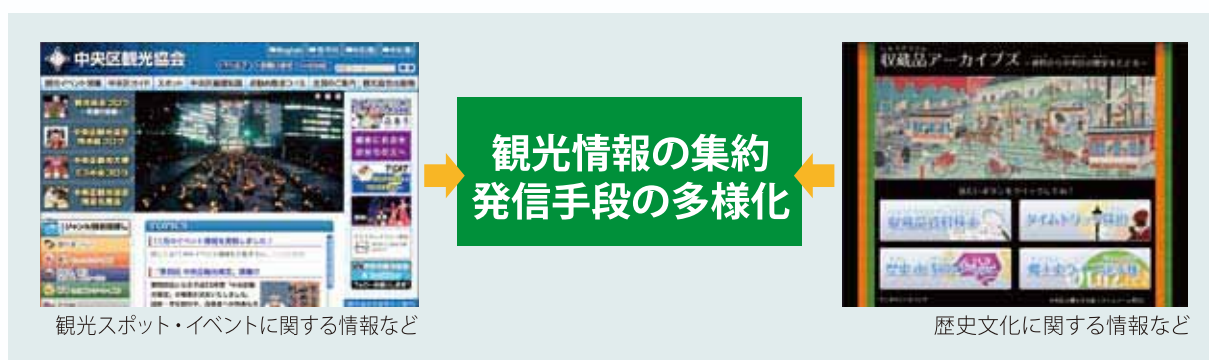
④ インターンシップによる育成

観光教育を実践している大学等と連携し、区や民間事業者が観光人材インターンシップの受入先となり、将来中央区の観光を担う人材を育成します。

戦略4 観光情報の発信を強化する

現在の観光情報はイベントや施設等の観光資源が中心です。また、地域の団体や企業から発信される情報は分散しています。このため、都市生活に密着した深い情報や中央区のまちそのものを楽しむための情報を入手することは困難です。こうした点を克服するための情報発信を強化する戦略が重要です。

施策の方向性 観光情報を集約し、発信手段の多様化を図る



重点施策

1 「中央区観光EXPO」の開催

多種多様な観光資源を国内外の観光事業分野に携わる人々に紹介し理解を深めるとともに、プレゼンテーションやシンポジウム、旅行関係者や異業種とのコラボレーションなど、国内外や業界内外に向けた情報発信を通じ次のビジネスにつなげるEXPOを開催します。

中央区は歴史や文化の魅力あふれる観光資源が豊かですが、まだ認知されず埋もれているものもたくさんあります。そこで観光拠点などを活用しながら、あらゆる観光関連企業や組織が一同に集まる場と機会を設け、企業によるブース出展や情報交換、プレゼンテーション、商談などを通じ、交流や観光需要の拡大をはかり、国内外に情報を発信していきます。また、今後の観光ツアーの企画や、来場者同士のタイアップの機会を生み出し観光全体の活性化につなげていきます。EXPO終了後には、出展企業とタイアップし、観光ルートを実際に体験してもらうモニターツアーなども実施するなど、本区の魅力をさらに理解してもらいます。



「中央区観光EXPO」を活用した情報発信のイメージ
旅博2011の様子 写真提供：JATA(日本旅行業協会)

2 スマートフォンなど携帯情報端末を活用した情報発信の推進

国や東京都との連携を視野に入れながらスマートフォン等携帯情報端末が持つ情報発信力や情報処理能力等を有効に活用し、国内外の旅行客がその場で歴史や文化、グルメに関する情報を入手できるサービスを構築します。

また、携帯情報端末のカメラに写る風景に、その場で情報を重ねるソフトウェアなどを活用し、カメラをかざすと登録してある観光スポットの位置を表示したり、目的地を画面上で選択すれば動画や説明文、地図によるルート等の情報を提供するサービスも可能になります。

さらに、まちかど案内処等の観光案内所やホテルに無線LAN(Wi-Fi)を活用し、多言語対応の観光ウェブサイトや観光情報番組、警察や病院等の連絡先や緊急時の災害情報などを提供し、観光客のみならず、区民の生活に役立つ情報も提供します。



スマートフォンなど
携帯情報端末を使用した
情報発信のイメージ

主な施策

① 観光情報の一元化

様々な団体が所有する情報を提供し合い観光情報を集積します。

② 隅田川サミットの開催

隅田川沿岸4区(中央区・台東区・墨田区・江東区)及び東京都の広域連携によるシンポジウムを開催します。

③ 観光案内施設の拡充とネットワーク化

区内の観光案内施設の情報を集約して連携を促進し、区内全域に観光案内機能のネットワークをつくります。

④ 「中央区観光ミッション団」の結成と「中央区観光ミッション」の開催

中央区の観光に携わる担い手が様々な地域に出向き、各地の観光の担い手に対し、観光PR活動を展開します。

⑤ パブリシティ強化

様々なイベントや取り組みをマスメディアに取材してもらうため、プレスリリースなど積極的に情報提供を進め、より強力なパブリシティを進めていきます。

⑥ フィルムコミッション機能の整備

テレビや映画のロケ地マップなどをウェブサイトで公開し、新しい層の観光客を誘致します。また、撮影場所となる地域や施設と、映像制作者との橋渡し役としてのフィルムコミッション機能を整備します。

⑦ 情報発信のフレームづくり

共通ロゴ、ビジュアルシンボル、写真などの素材、関連情報などを提供し、企業・店舗や観光ボランティア、来街者自身に中央区の情報を発信してもらうための利便性を高めます。

戦略5 観光に必要な基盤を整備する

都市環境の整備が活発に行われてきましたが、観光客のニーズを十分に捉えたものとはなっていません。今後は民間企業や地域団体と連携し、区民や来街者にとってわかりやすい環境づくりを進めるとともに、観光の視点を盛り込んだインフラを整備する戦略が必要です。

施策の方向性 「都市観光」の実現に向けた、快適な環境を整備する



さらに期待される船着場の整備



不足している観光バスのための駐車場



新しい潮流・スポーツ観光

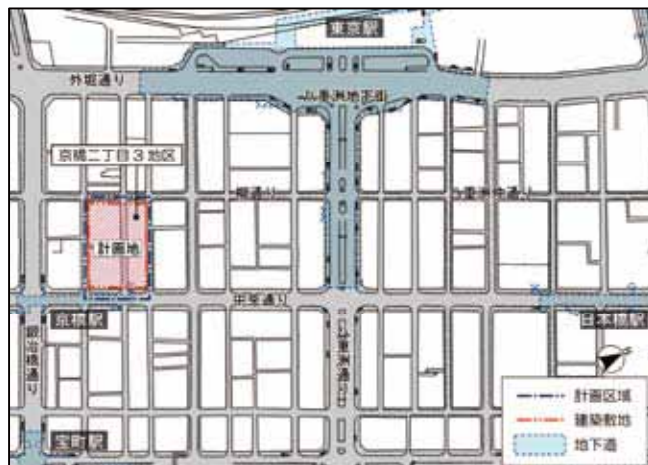
重点施策

1 「中央区観光拠点(仮称)」の整備

「中央区ではどんなことが体験できるのか」という情報を、多くの来街者に提供していくことが求められます。どこにいけば、どんなものを見たり体験したりすることが出来るのかをわかりやすく魅力的に伝えていくために「中央区観光拠点(仮称)」を整備し、様々な観光資源の魅力を余すことなく伝えていきます。

この施設を核に、区内の観光案内施設の情報を集約して民間との連携を促進します。こうした活動により収集される豊富な情報を来街者に向けて編集し、情報発信していきます。

人々の注目を集める話題性、区内の様々な場所への好奇心の喚起、観光スポットにスムーズにたどり着ける案内機能、中央区ならではのグッズや老舗の味が一部体験できるアンテナショップ等の機能、まち歩きツアーの出発ステーションとなるオリエンテーション情報、メディアに向けた一元的なパブリシティなど、多彩な機能を担います。



「中央区観光拠点(仮称)」が検討されている京橋二丁目西地区第一種市街地再開発事業

2 「まちかど案内所(仮称)」の整備

まち歩きを促進するために「初めての来街者」にもわかりやすい推奨ルートをつくり、観光情報の案内機能や休憩、トイレなどのアメニティ機能を備えた「まちかど案内所(仮称)」を整備します。「まちかど案内所(仮称)」は、区施設の一部や民間の商店、事業所、まちかど展示館等に整備します。また、まち歩きの推奨ルートを幅広い来街者に示すため、他言語を含め誰もが一目でわかるサイン計画を実現します。

墨田区の事例「すみだ街あるき案内処」



共通の目印となるサイン

墨田区では「英語が話せる」「地域に詳しい」などの一定の条件のもとに地元店舗の協力を得て「街あるき案内処」を設置し、道案内や簡単な観光案内のほか、観光パンフレットの提供を行っています。店先のスタンドやステッカーが目印になっていて初めての人でもわかりやすくなっています。



協力店舗の様子

主な施策

① 「川の道」の整備

水上から景観を楽しみながら区内を回遊できる「川の道」の整備を推進します。

② 羽田空港からの水上交通整備検討

羽田空港から直接中央区へと至る水上交通の確保について検討、国などの関係機関に働きかけます。

③ 携帯端末によって情報を得られる通信環境の整備

無線LAN (Wi-Fi) 等どこからでも高速でつながる携帯端末の通信環境を整備します。

④ 安心・安全なユニバーサルデザインの実現

誰もが使いやすく安心・安全な観光基盤を整備します。

⑤ 隅田川ランニングコースの整備

隅田川周辺に走りやすい環境を整備し、地域にスポーツ関連や飲食などのビジネスチャンスを生み出します。

⑥ コミュニティサイクルの導入

区内を手早く回遊したい観光客のニーズに応え、サイクルポートを整備しコミュニティサイクルの活用を促進します。

⑦ 新しいデジタル観光案内機能の整備

ITを活用し、多言語対応の案内が可能な観光案内ポストを整備します。

⑧ 観光ガイドンス映像の整備

観光客の関心を高め、まちに回遊させるために、区の魅力を俯瞰できる映像をつくります。

⑨ 観光バス駐車スペースの整備

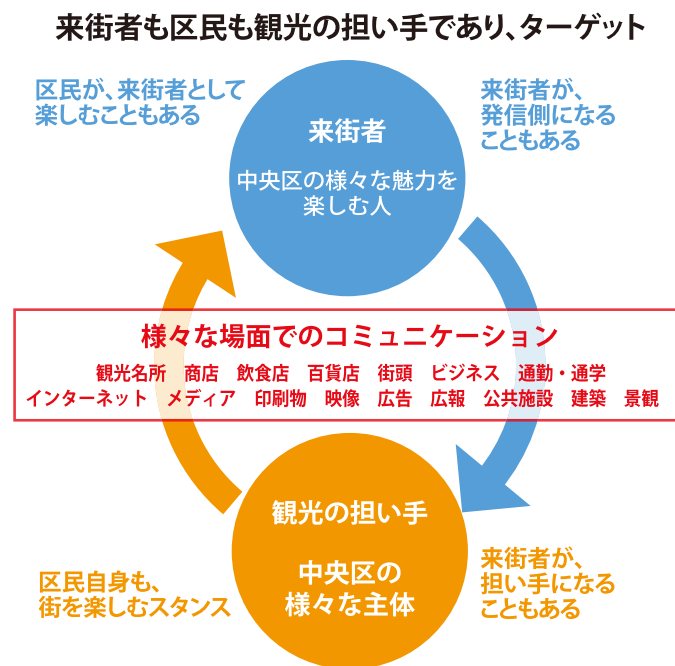
大規模再開発の際、事業者に対し不足している観光バス駐車スペースを整備するよう働きかけます。

観光の担い手

区民も、来街者も、自らまちを楽しむ人は皆、観光の担い手

「都市観光」の考え方では、観光の担い手とは観光ビジネスに携わる人々だけではありません。多くの人々が自らまちを楽しむことが「都市観光」を活性化させるという観点から、まちを楽しむ人々は区民も来街者も皆、観光の担い手として捉えます。そして地域と立場を超えて来街者も担い手となり、担い手も来街者として楽しむという「ともに楽しみ、ともにつくり上げる」観光を実現します。

様々な人々が集い、それぞれの知識・技・思いを持ち寄り、力を合わせて新しい区の魅力を創造するための気運を高めます。そこで生まれたコミュニケーションの成果を広く発信し、それをきっかけにさらに多くの人々が中央区の「都市観光」に参加していく循環をつくります。



観光の担い手の役割

区の役割

観光の担い手による活動の支援
 総合的な調整役
 区を超えた広域連携の促進

区民の役割

くらしのなかでまちに親しみ、まちを楽しむ
 まちの歴史や文化に触れ、愛着と誇りを育てる
 来街者に対して中央区の魅力伝える

観光団体、商工業団体、地域団体等の役割

地域の魅力を高めるイベントの実施
 地域経済の活性化
 協働プロジェクトの創出

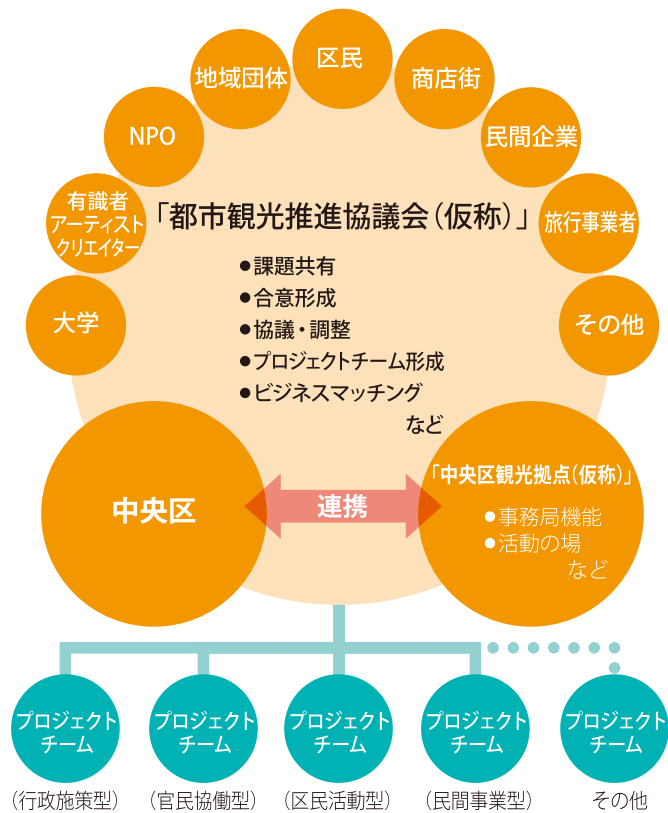
事業者の役割

ニーズに対応した多様なサービスの展開
 まちの利便性向上や情報発信
 事業を通じた区の魅力の向上

推進の体制

都市観光推進協議会(仮称)

様々な観光の担い手が情報交換、課題共有のために横断的な協議を進める場として「都市観光推進協議会(仮称)」を設置します。区民、関係団体、事業者、専門家、行政の各部署など多様な分野の観光の担い手が集まり、情報や問題意識を共有し、自分たちだけでは解決できない領域を補い合っていく、横断的でゆるやかなネットワークをつくります。



推進の拠点

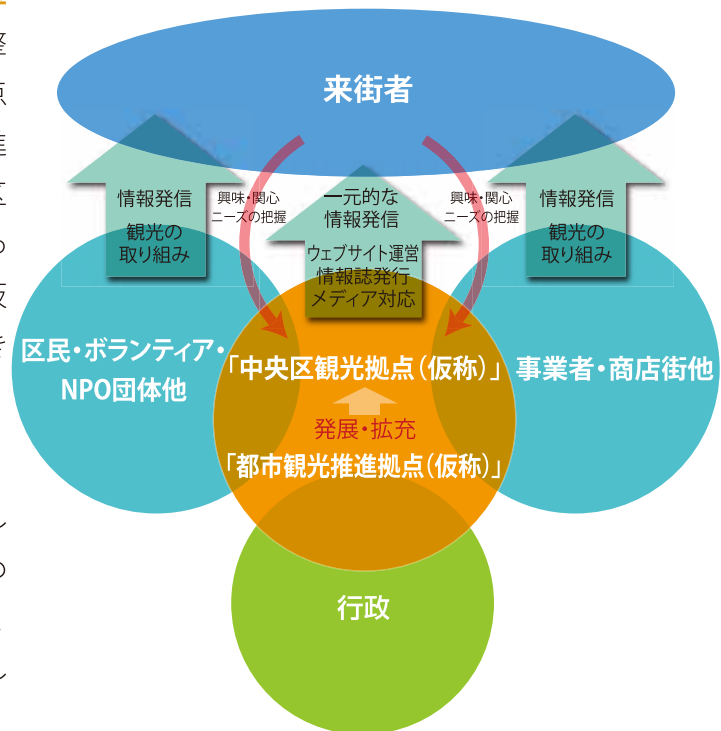
支える

「都市観光推進拠点(仮称)」の設置

平成28年(2016年)京橋二丁目に整備が予定されている「中央区観光拠点(仮称)」に先駆け、「都市観光」の推進拠点を設置します。この拠点では、区や観光協会を中心に官民一体となって施策を推進し「中央区観光拠点(仮称)」における活動へとつなげていきます。

「中央区観光拠点(仮称)」の整備

「民の力」が主役となり、本区の新しい魅力を創造・発信していく施設をめざします。単なる観光案内所ではなく、新しい観光活動の拠点として、活用します。





中央区

中央区観光振興ビジョン2012

歴史と未来が交差する
「都市観光のまち」へ

概要版

刊行物登録番号

23-103

平成24年3月発行

発行 中央区区民部商工観光課
東京都中央区築地一丁目1番1号
03-3546-5328・5329

印刷 株式会社トータルメディア開発研究所

表紙等の写真は、中央区観光協会の協力により「中央区観光写真コンクール」の入賞作品を使用しております。



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。